ISSN 0911-5587

柵

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 27

1998
OCTOBER

電子図書館時代の教育と研究

小田川　大　典

電子図書館時代の到来

毎朝起きると、私は先ず居間のパソコンを起動し、電子メールを受信しつつ、インターネット上に公開されている複数の新聞社のホームページで最新ニュースを確認する．関心のある記事については、キーワードを検索エンジンや図書館のオンライン目録で調べれば、関連する多くの情報を、コーヒーがはいるまでの短い時間で、容易に得ることができる．様々な資料についての情報――資料名、所在、入手方法等々――だけではなく、資料そのものが電子情報として世界中の様々なウェブサイトで公開されていることも多い．例えばジョン・ステュアート・ミルの『自由論』などは、既にその全文が電子情報として公開されており、インターネットを通じて利用することができる．電子テキスト化された『自由論』があれば、ミルが「自由」という言葉をどういう文脈で使っているか、その用例を容易に、しかも短時間のうちに調べることができる．何冊もの古典をテキスト文書やHTML文書としてノートパソコンや携帯端末に入れて持ち歩くことも手軽にできるようになった．

津野海太郎氏によれば、このようなデジタル化された情報を基にして電子図書館を構築するという発想は、1971年に遡る．パソコンなど普及せず、未だ巨大なコンピューターを共同利用していた頃、イリノイ大学のマイケル・ハートが「アメリカ独立宣言」をタイプ

して、自分の端末から、大学で同じコンピュータを共同利用している友人に送りつけたのが、そもそものはじまりらしい．後に「プロジェクト・グーテンベルク」として知られるようになる「英文テキストの電子化」計画の開始である．この「プロジェクト・グーテンベルク」自体は後に資金難のために頓挫することになるが、「いったんデジタル化されたデータは何度でも再利用できる．この特性を利用して新しい電子公共図書館がつくれるのではないだろうか」というハートの思い付きは、様々な形で受け継がれていると言える（『新・本とつきあう法』中公新書）．

電子情報の海の中で――教育・研究の課題

様々な資料（その中には文書だけでなく、画像、映像、音声、音楽などほとんどあらゆる「情報」が含まれる！）の電子化、各種データベース・電子ジャーナルの整備、図書そのものの情報（主に目録の類）の電子化等々．――こうした電子図書館的機能は岡山大学附属図書館においても次第に強化・充実されつつある．学生時代、カード目録等を調べつつ、専ら足で図書館を「検索」することしかやらなかった者として、今後は、こうした電子図書館の機能を上手く利用する技術を身につけなければならないし、学生に対しても何らかのかたちで指導していかなければならないだろう．幸い、こうした技術的な面に関しては、毎年４月末から５月に行なわれる図書館オリエンテーションで、学内者であれば誰でも、図書館員の方々の指導を受けることが可能である．（残念ながら私は、自らの怠慢のために、未だ参加する機会を持っておらず、そのおかげで日々図書館で苦労するとともに、図書館員の方々に余計な面倒をかける羽目になっているのだが…….）

だが、このように情報収集が極めて容易になる中、それに見合う批判的な思考能力をどうやって涵養するかという問題が生じてくるであろうということ、このことは指摘しておきたい．学問的営み一般について言えることかもしれないが、特に社会科学においては、個々の断片的な情報から対象の全体像を再構成していく強靱で、しかも柔軟な想像力が学ぶ者すべてに要求される．そして情報の量的な増加は、或る意味でこうした想像力の質的な向上を我々に迫ってくるに違いない．図書館員の方々の様々な技術的支援を得つつ、我々は、各自の教育・研究活動を通じて、こうした時代の要請にどう応えていくべきなのか．――電子図書館時代の到来はこのような課題を大学教員の側に突きつけているように思う．

（おだがわ・だいすけ　法学部助教授）

摩訶不思議「電子図書館」雑感

小　河　孝　則

岡山大学も電子図書館に向かって歩み始めるそうである．電子図書館になると、雑誌や図書がすばやくたちどころに手元に届く．最新の情報が入手できる．音声や動画も搭載されると言う．便利な時代だなと思う．でも、誰が電子化するのかな．大変だろうな．重たい本を持ち歩く必要もなくなる．本棚も不要になるかもしれない．図書の保存と言う面から見ても、読者が直接手にふれるのではないから、従来のように図書が傷んだりすることはない．確かに管理する立場からみると、電子図書館は便利だと思う．

図書を読む立場からはどうなのだろう．最近、私は視力に自信がなくなった．先日、E-mailやインターネットを教えるお手伝いをする機会があった．この会場では、私の使っているCRTよりも大きなCRTであった．私は何とかなると思った．ところが、教えるお手伝いをする私には、E-mailの宛先やインターネットの宛先がじゅうぶんに見えないのである．また、E-mailの宛先やインターネットの内容についても読みやすいものがあったり、読みにくいものがあったりして大変であった．遠近両用の眼鏡を上下に何とかきりぬけた．これまで、自分の部屋ではそんなことはなかったのだが．それは、私が使いなれた機器と、固定的な情報しか扱ってなかったからだろうか．そんな中でK氏から電子図書館についての原稿依頼である．旧知のK氏ゆえお引き受けしたものの、先の例を考えると、私の視力では電子図書館に少しこわいものを感じている．

これまでに、私は電子ブックも使ったし、電子辞典を利用しその便利さには驚かされた．新潮社文庫100冊のCD-ROMには驚かされたし、読むのにさして不便も感じなかった．理科年表のCD-ROMは研究にも利用できるし、不便も感じなかった．カーナビゲーションを持っていない僻みではないが、地図のCD-ROMをノート型パソコンに入れ車で旅行に出た時には、大いに助けられた．これらは読んでもらえるよう、また、読みやすいように作られているからであろう．また、図書の使用目的が明確にされているからであろう．これらを電子図書の典型例として、電子図書館を考えればいいのだろうか．どうもそう簡単な問題ではなさそうだ．

これから提供されるであろう電子図書館で読ませてもらう図書は、読みやすいように構成や配慮がなされているのだろうか．申し訳ないが、すべての図書に配慮がなされているとは思えない．作成する側と読む側の意識がうまく同調できているとは思いがたい．読みにくければ拡大して読むか、コピーキーを利用してプリンターに印字して読めばいいと言われるかもしれない．コピーする際の著作権や版権はどうなるのだろうか．紙の多用による環境問題はどうなるのだろうか．電子図書館になれば、現在の紙の使用量より大幅に減少するから大丈夫との意見もある．

図書は、手にとって頁をパラパラめくってみて図書を俯瞰し、はじめて読もうかなと考えるのは私だけなのだろうか．電子図書館では図書を探すことはたやすいと思う．でも、探した図書を俯瞰することはできるのだろうか．俯瞰することができても、どんな風に俯瞰できるのだろうか？　そんな軽い気分で図書に接するなと言う声も聞こえそうである．

現在の図書は、寝転んでも読める．私にとって文庫本は睡眠薬代わりである．また、夜中にふと眼が醒めた時に読む新書は、私の乏しい知識の最良の友である．電子図書は、寝転んでも読めるのだろうか？　眼が醒めたらマウスを動かして電子図書館を呼び出さなければならないのだろうか？　私には、電子図書館は難しい問題を抱えているように思えてならない．

電子図書館が拡充拡大されると、活字出版物はなくなるのだろうか．手元に、中西秀彦氏著「活字のなくなる日」という書籍がある．中西氏によると活字がなくなる日はないと指摘している．中西氏によれば、現在手元にある 8 mm フィルムを見ようと思ってもなかなか大変なように、活字でなければ情報の安定した保存が不可能であることを指摘している．なるほど、中西氏の言われることは私にもあてはまる．現在オープンリールのテープを再生するのも大変である．安定した情報の提供保存ということになると、現在の図書館と電子図書館との接点はどうなるのだろう．電子図書館は、管理する側にも読む側にも新しくかつ難しい問題を与えそうである．

電子図書館の到来は避けて通れないであろう．要するに、私が電子図書館に慣れるしか道はなさそうだ．近い将来、生きていれば私は、遠近両眼の眼鏡を上下しCRTをにらみながら電子図書館とつきあうことになるのだろう．

電子図書館には読んで聞かせてもらえる図書も多くなるだろう．視力が落ちた私には、これは楽しみである．これなら、寝転んでも利用できそうである．

（おがわ・たかのり　医学部助手）

電子ジャーナルを知っていますか？

電 子 情 報 係

1．概　要

「電子図書館」や「電子ライブラリー」など「電子」という単語のついた言葉がよく取り沙汰されています．その多くのフレーズの意味するところは、「ネットワークを使って、わざわざ図書館に行かなくても欲しい資料そのものを見たり、読みたい論文を読むことのできるシステム」をあらわします．

学術雑誌の世界でも、大手出版社、学協会や学術機関を中心にして、これまで冊子として発行してきた学術雑誌の全文をデータベースにのせて、世界中のどこからでも読めるようにするシステムの開発競争が盛んに行われています．これらのシステムを「電子ジャーナル」や「オンラインジャーナル」と呼んでいます．代表的な電子ジャーナルのシステムとしては、Springer社の「LINK」、Elsevier社の「EES」、Academic　Press社の「IDEAL」

などが有名です．この他にも電子ジャーナル化への取り組みは行われていますが、全般に電子ジャーナルの動向が安定化するにはまだ時間がかかりそうです．

2．電子ジャーナルの特徴

電子ジャーナルはこれまでの冊子体による情報伝達と違って、いろいろな特徴を持っています．ここではその特徴を表形式にしました．

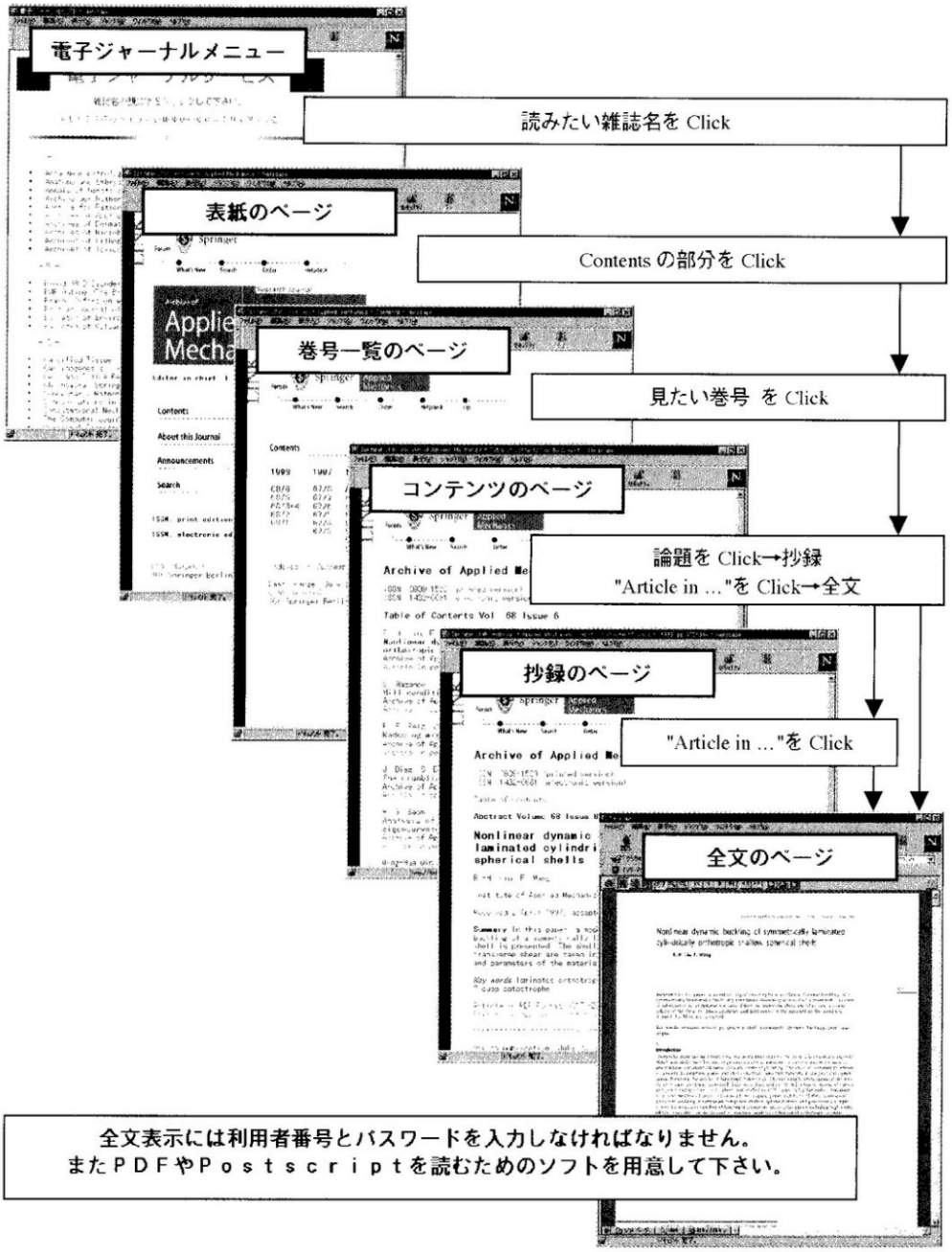
	電子ジャーナル	冊　子　体
資料の利用方法	ネットワークを利用するので、図書館に出向く必要がない．また、複数の利用者が同一の資料にアクセスして、印刷やダウンロードをすることができる．	学内の所蔵を調べて、所蔵先に出向く必要がある．また誰かに貸出していたり欠号になっていたりすると、原文入手までに更に時間がかかる．
資料の速報性	現物発送が必要ないので、タイムラグがなく、冊子体に比べると２週間～１ヶ月は早く読める．	現物の発送を要するので、出版されてから手元に届くまでに時間がかかる．
資料の探し方	電子ジャーナルの多くのシステムは簡易的な検索機能を備えている．	コンテンツを見ながら論題をすべてチェックしなければならない．
バックナンバーの利用	現状では契約期間を過ぎるとアクセス権限が切れるのでバックナンバーは利用できない場合が多い．	現物として受け入れるので、いつでも利用できる．
書庫の省スペース化	サーバ上に保存するので、ハードディスクが必要になる場合もあるが、書庫の必要がなく省スペース化できる．	保存ためのスペースが必要になる．

3．図書館の電子ジャーナルサービス

図書館では、平成９年10月より「電子ジャーナルサービス」のホームページを開設して、学内利用者を対象にサービスを開始しました．サービス開始時より、冊子体を購読している時に無料で閲覧できる出版社のジャーナルを対象としております．当初の雑誌数は35誌でしたが、平成10年度雑誌の契約にあわせて利用できる雑誌数は増加し、平成10年８月現在で92誌の電子ジャーナルをサービスしています．

4．電子ジャーナルの利用法

最後にSpringer社の電子ジャーナル「LINK」の画面展開を図示します．



マスカット

電子情報係誕生

平成10年4月1日に、増大する電子情報への速やかな対応を目指して、情報管理課システム管理係は情報サービス課電子情報係へと生まれ変わりました．サービスカウンターは新館1階ニューメディアコーナー前です．CD-ROMや電子ジャーナルの利用ガイダンスも行っています．内線7312またはfah7312@adm.okayama-u.ac.jpにお問い合わせください．

WWW版諸職交替データベースの公開

昭和63年12月から学内に公開していた諸職交替データベースが、図書館のホームページから検索できるようになりました．ホームページの池田家文庫を選んでください．学外からの検索も可能です．「諸職交替（しょしきこうたい）」(上下2巻)は、岡山大学附属図書館池田家文庫の岡山藩政史料のひとつで、岡山藩の格制、軍事的職制、行政的職制が相対的に配列され、職種ごとに江戸全期にわたる更迭を記録したものです．

中央館オリエンテーション・ガイダンス報告

＜新入生オリエンテーション＞

期間：4月9日㈭～24日㈮　※土・日・休館日を除く

内容：新入生向け図書館利用案内（ホームページによる利用案内、カード目録の使い方、オンライン目録の使い方）

参加人数：608人（自由参加：337人、授業単位：18組、271人）

＜CD-ROM利用ガイダンス＞

期間：5月18日㈪～5月22日㈮

内容：教官、大学院生、論文作成段階の学部生向けにデータベースの検索案内

参加人数：14組（70人）

ガイダンスの希望があったものは、MEDLINE、BA、CA、CCOD、ERIC、MLA、J-BISC、雑誌記事索引で、データベース別では計22件の参加がありました．

<電子ジャーナル利用ガイダンス＞

中央館では、ホームページに電子ジャーナルのページを設けたことから、より多くの方に電子ジャーナルを理解していただくために、6月18日㈭にSpringer社「LINK」とIOPの電子ジャーナルサービスの利用ガイダンスを行いました．

「ドイツ教育思想コレクション」受入

平成9年度の大型コレクションとして採択された標記図書資料全432点の整理が終わり、利用できるようになりました．これはルドルフ・シュタイナーの著作を中心に、ペスタロッチ、ザルツマン等の初版本を含む、ドイツ教育思想、とくに新教育の思想と運動に関す

る研究に不可欠な文献のコレクションです．配架場所は中央館書庫、OPACから検索できます．

遡及入力開始

中央館では平成10年９月より図書目録の遡及入力を本格的に開始しました．今年度は新館３・４階の閲覧室の和図書を対象としています．この作業のためOPACで検索して、図書館所蔵となっている図書でも閲覧室にない場合があります．その際は図書館員にお尋ねください．

土・日開館時間延長について

平成10年４月から、土・日の開館時間が17：00までに延長されました．

鹿田分館オリエンテーション報告

鹿田分館では４月９日㈭に、新入生を対象にした図書館案内オリエンテーションを行いました．また、４月13日㈪と７月15日㈬の２回にわたり、大学院生を対象にしたCD-ROMを使った文献検索セミナーを行いました．

資生研分館からのニュース

１）研究室貸出図書の点検整理

研究室長期貸出図書全約5,000冊の点検・整理を２年計画で着手し、１年余で、ほぼその作業を終えました．

点検と共に、研究室での利用が減じている約2,000冊の返却・回収手続きを行い、継続貸出のものを含む約3,000冊の目録遡及入力を行いました．

２）情報検索ガイダンス

情報検索ガイダンスは、４月の新入生（院生）オリエンテーションでも行っていますが、更に、全教官、全学生を対象に、分野（講座）単位での「情報検索・電子ジャーナルガイダンス」を１年計画で開始しました．

それぞれの分野の、情報検索やコンピュータ操作に詳しい若手教官や学生の協力も得ながら、分野毎のメニューで行っています．

３）四つのコーナーを設置

研究所業績集コーナー、研究所出版物コーナー、学生（院生）用就職資料コーナー、外国人研究者用コーナーを設置しました．

外国人研究者用コーナーには留学生を含む外国人研究者が、日本での日常生活に役立つと思える資料を購入配架しています．

会議

◆学外

10. 4.23～4.24　第46回中国四国地区大学図書館協議会総会（於徳島厚生年金会館）
・図書館における利用者教育について、その他

4.24　第25回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於徳島厚生年金会館）
・事務一元化における図書館の対応について、その他

5.26　平成10年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）
・大学図書館の当面する諸問題について

6.29　平成10年度岡山県図書館協会総会（於 岡山県総合文化センター）
・平成10年度事業計画について、その他

6.24～6.25　第45回国立大学図書館協議会総会（於鹿児島市民文化ホール）
・平成10年度事業計画について、その他

◆学内

9.12.9　平成 9 年度第 4 回附属図書館運営委員会
・平成10年度ニューメディア資料（CD-ROM）の選定について、その他

10. 3.17　平成 9 年度第 5 回附属図書館運営委員会
・平成10年度ニューメディア資料（CD-ROM）の選定について、その他

5.19　平成10年度第 1 回附属図書館運営委員会
・図書館資料整備新 3 年計画後の検討について、その他

5.19　平成10年度第 1 回図書館資料整備検討会
・図書館資料整備新 3 年計画後の検討について、その他

6.16　池田家文庫等特殊文庫委員会
・平成10年度事業計画について、その他

6.18　平成10年度第 2 回附属図書館運営委員会
・平成10年度図書館資料整備執行計画（案）について、その他

6.18　平成10年度第 2 回図書館資料整備検討会
・21世紀第 1 次図書館資料整備計画について、その他

7.24　第 1 回電子図書館構想検討委員会
・電子図書館について、その他

7.24　平成10年度第 3 回図書館資料整備検討会
・21世紀第 1 次図書館資料整備計画について、その他

研修

・平成10年度岡山大学事務系職員初任者研修
　参加者　西村朋子（4.20～4.23）

・平成１０年度岡山大学事務系職員語学研修（中国語）
　参加者　川上研三、西村朋子（6.15～7.23）

・平成10年度大学図書館職員長期研修
　参加者　大元利彦（7.13～7.31）

・平成10年度岡山大学事務系職員語学研修（英語・初級コース）
　参加者　寺本智美（7.14～9.7）

・平成10年度目録システム地域講習会
（図書コース）
参加者　坂谷陽子、三好美砂子（7.14～7.16）
・平成10年度目録システム地域講習会
（雑誌コース）
参加者　犬飼恵美子、本間静一郎
（7.21～7.23）
・第18回人事院式監督者研修（JST）基本コース
参加者　大元利彦（8.24～8.27）
・第98回CA利用法講習会
参加者　嵯峨奈美子（8.25）
・平成１０年度総合目録データベース実務研修
参加者　森谷めぐみ（9.21～10.9）

予告　池田家文庫等貴重資料展「岡山藩と海の道」

今秋の貴重資料展は「岡山藩と海の道」というテーマです．とくに、航路・船手と御舟入・岡山藩と湊・海防と湊・朝鮮通信使の接待の５つの側面から、備前国絵図（明和２年)、海瀬舟行、本邦海岸線各地里程記入地図写など、約30点の史料を、展示いたします．

期　間　　平成10年10月23日㈮～11月１日㈰
時　間　　午前10時～午後４時
場　所　　岡山大学附属図書館　特殊資料展示室（新館５階）
講演会　　「瀬戸内の交流」
講　師　　竹林栄一氏（岡山県総合文化センター総括学芸員）
日　時　　平成10年10月31日㈯　午後２時～

問合わせ先
岡山大学附属図書館　参考調査係　TEL　086-251-7322
〒700-8530　岡山市津島中３丁目１－１

編集委員会から

今回のテーマは「電子図書館」．人文社会科学系・自然科学系からお一人ずつ執筆をお願いしました．

このところ何かにつけて「電子」ということばがキーワードとして図書館の世界を飛び回っています．今後図書館はどうなるのでしょうか．興味深いところです．

岡山大学附属図書館報「楷」　No. 27　平成10年10月１日
発行人　橋本健一　編集　広報委員会　表紙デザイン・レイアウト　清水國夫
岡山大学附属図書館発行　〒700-8530　岡山市津島中三丁目1-1　電話086-252-1111